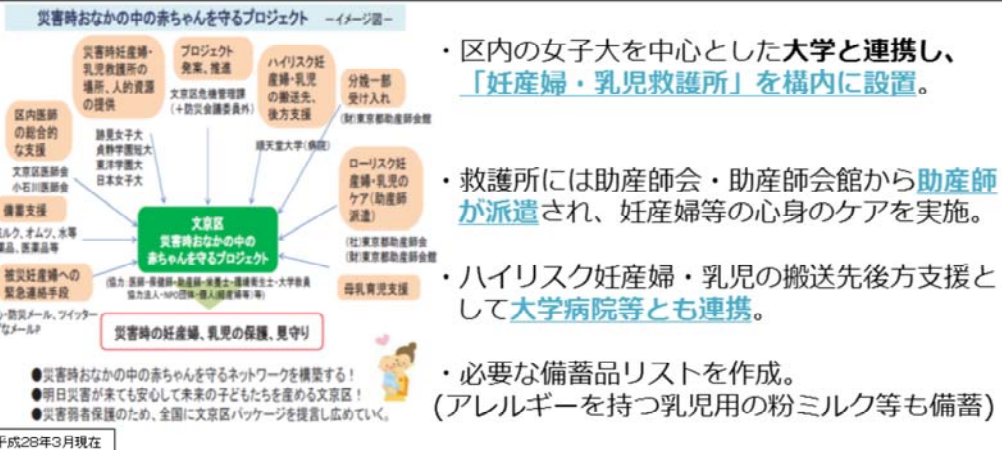


男女共同参画の視点からの防災

事例集

【取組の概要】

- ・文京区では、平成24年に全国に先駆けて災害時に妊産婦や乳児が避難する専用の妊産婦・乳児救護所（母子救護所）の設置を地域防災計画に記載。
- ・母子救護所を確保するための支援協定を区内各所と締結。
- ・毎年、協定先の大学において関連機関と協力しながら、母子救護所の開設訓練を実施し、災害時に妊産婦・乳児を保護する体制を構築。



地域防災計画に男女共同参画の視点を導入した事例です。

東京都文京区では、地域防災計画に妊産婦・乳児専用の母子避難所の設置を明記しています。

取組の概要を説明します。

【ポイント】

- ✓ 全国に先駆けて、災害時に妊産婦や乳児が避難する専用の母子救護所を設置することを地域防災計画に明記。
- ✓ 救護所開設場所となる大学、妊産婦のケアをする助産師、ハイリスク妊婦や出産時にサポートが必要となる大学病院等、多様な区内の関係機関と協定を結び、母子救護所を確保するための取組を実施しています。
- ✓ 協定を結んだ後は、関係機関と連携しながら、毎年母子救護所の開設訓練を実施を通じて、災害時に災害弱者となる妊産婦や乳児を保護する体制を構築しています。

【補足】

主な連携先：

大学：跡見女子大、貞静学園短大、東洋学園大、日本女子大

病院：順天堂大学病院

助産師会：(社)東京都助産師会、(財)東京都助産師会館

文京区役所内では、災害発生時に備え、母子救護所へ派遣する職員をあらかじめ指定(勤務時間内5名、勤務時間外7名)

【取組の経緯】

東日本大震災

東日本大震災の際、避難所に派遣された区職員が、**妊産婦と乳児へのケアが不十分だった**ことを目の当たりにした。

任意のプロジェクトチーム

任意のプロジェクトチーム（医師、看護師、助産師、地域のパパ・ママ、子育て支援NPO等）を立ち上げ、プランを練った（東日本大震災後、何かせねばという機運が高まった）

従前からの連携

もともと区と大学には連携があり、大学側からも、大規模災害時に帰宅困難者の受け入れについてどう対応すべきか相談があった。

大学や病院との協議

具体的な連携方法や条件（女子大は帰宅困難者の受け入れは女性に限定したい等）について何度も丁寧に協議を重ねた。

協定の締結

- 設置場所：区内の4大学（女子大は女子トイレの数が多いほか、福祉・介護系をもつ大学は施設や学生の協力も仰げる。）
- 大学が備蓄品の場所も提供（管理は防災課）
 - ①粉ミルク（アレルギー用粉ミルク含む）、②哺乳瓶や粉ミルク用の水、③紙おむつ、④お産セット 等

取組に至った経緯を説明します。

【ポイント】

- ✓ 東日本大震災の際、現地に派遣された区の職員が妊産婦や乳児へのケアが不十分だったことを目の当たりにしたことが契機となりました。
- ✓ 大学や病院とは、協定締結前に具体的な連携方法等について丁寧に協議を重ね、両者が納得した上で協定を締結しました。
- ✓ 結果、協定締結にいたり、救護所開設に十分な場所や、必要な備蓄品等の整備を行うことができました。

母子救護所開設訓練の様子



受付では、部屋割表を使用し、避難者に部屋を案内



学生が妊婦・受付・誘導の役割を分担

毎年継続的に開設訓練を実施している。備蓄品の設置は大学、管理は防災課が担当し、妊産婦、乳幼児のニーズにしっかり対応。

災害時用備蓄配備内容一覧

種類	内容
非常食	レスキューフーズ1日セット(保存期間1年) 3食分の食事がセットになっている。 レトルト形式で、機材を使わずに加熱でき、食べることができる。
トイレセット	分糞セット1 緊急分糞に備え、処置に使う消耗品を1セットごとに箱にまとめて配備。 * 分糞シート 動盤受けシート ディスが置袋 犬 ガーゼ カット綿 携帯クワップ はさみ ゴム手袋 7号 ディスポザウン ディスお掃除
子ども用オムツ(L)	分糞セット2 緊急分糞後、産婦や新生児が使う消耗品を1セットごとに箱にまとめて配備。 * 大人用紙おむつ(オサンパット) オサンパット * 生児用ナプキン(使用) 生児用ナプキン (普通用) アルコール綿 新生児用紙巻 綿棒 パスタオル フェイスタオル 綿布
子ども用オムツ(S)	処置器具セット1 緊急分糞時に使用する医療器具を1セットごとに箱にまとめて配備。 * 羊水吸引用カテーテル 導尿用カテーテル ヘルプフレック * アルコール消毒液 滅菌ゴム手袋 滅菌ガーゼ はさみ ホアテープ アルコール綿
ウエストアクション	処置器具セット2 緊急分糞時、またはその処置後に必要な薬剤等を箱に入れて配備。 * アニリンメチナリン 輸送用製剤 コントロップ ぬれ用拭き紙 個別包装用ゼリー 消毒薬
はし	
モンダリン	
毛布	
スアーマット	
給水機(3口)	
分糞セット1	
分糞セット2	
超音波ドブラー	
注液計	
聴診器	
血圧計	
オシメーター	
酸素ボンベセット	
アムニオニウムバック	
注液計	
処置器具セット1	
処置器具セット2	
薬剤セット	

母子救護所開設訓練の様子と、備蓄品内容の一部です。

写真は平成27年9月に行われた訓練で、区の防災課・大学・助産師会・警察署が主な参加者です。

- ①救護所受付(入所)シミュレーション
- ②「避難所運営ゲームHUG」によるイメージトレーニングが行われました。

①では、大学生が妊婦・受付・誘導の役割を分担し、受付の案内から部屋への案内までを実施しています。

②では、訪れる妊産婦や乳幼児の症状が記載されたカードを大学の見取り図に記された「ハイリスク妊婦室」、「ローリスク妊婦室」、「母子室」、「感染症室」の3つの部屋に振り分けるとともに、その他母子救護所の運営で起こりうる事態にどう対応していくか活発な議論が行われました。

【取組のポイント】

具体的な制度設計

- ・地域防災計画に妊産婦、乳児を保護するための施設としての「妊産婦・乳児救護所」を明記し、区として災害弱者である妊産婦・乳児を保護することを明確に打ち出し。
- ・災害時に避難してくる妊産婦をあらかじめ具体的に算定し、結果に基づいて必要なスペースや出産支援、医療ニーズ等に関する連携先等を検討。

区内機関との有機的な連携

- ・区がリーダーシップを発揮し、防災課が中心となって区内の多様な関係機関と有機的に連携することにより、災害時において妊産婦等を守るための体制が整備。
- ・大学、助産師、警察等と連携しながら、毎年、開設訓練を実施。
- ・年1回関係者が一堂に会して合同会議を行い、課題を洗い出し。

内閣府避難所の確保と質の向上に関する検討会第3回質の向上ワーキンググループ

資料5、参考資料1

http://www.bousai.go.jp/kaigirep/kentokai/hinanzvokakuho/wg_situ/dai3kai.html

当時の課長へのインタビュー記事 <http://kosodateswitch.jp/catchup/201511/>

文京区
危機管理室防災課
03-5803-1179

取組のポイントを説明します。

【ポイント】

- ✓ 地域防災計画に妊産婦・乳児のための「妊産婦・乳児救護所」の設置を明記し、災害弱者となる妊産婦・乳児を保護することを区として明確に打ち出しています。
- ✓ 計画に記載するのみでは無く、実際に救護所の運営が成立するように、あらかじめ避難してくる妊産婦の数などを具体的に想定し、想定に基づき関連機関と連携すべく協定を締結しています。
- ✓ 妊産婦・乳児の保護には、救護所の場所となる大学、ケアに当たる助産師、医療ニーズ等に対応する医師・病院等、多様な主体が関係しますが、開設訓練や会議等を通じて、区がリーダーシップを発揮して、これら多様な関係機関と有機的に連携体制を構築しています。